

タンザニア

1. 2004年非鉄金属一般概況

主要産業は、農業（GDPの約50%を占める）、メイズ、キャッサバ、米、豆類、コーヒー、綿花等で、工業ではサイザル麻・タバコ等、農産物加工がある。

鉱業部門の生産額は、2002年に15%増加、2003年には約17%成長した。これは金の生産の増加によるものである。また、輸出額から見ると、

3. 主要鉱産物の生産及び消費動向

単位：千t

年	鉱山生産量		地金生産量		地金消費量	
	2003	2004	2003	2004	2003	2004
銅	3.7	4.3	—	—	—	—

資料：World Metal Statistics Year Book 2005

4. 鉱山及び鉱山会社の活動状況

(1) 稼行鉱山

現在稼行中の金鉱山の生産状況は以下のとおりであり、ほぼ前年並みの生産量となっている。また、Barrick Gold社（カナダ）が70%、

1999年の39.8百万USドルに対し、2003年の504.1百万USドルとなって、飛躍的に伸びている。

近年、金やダイヤモンド生産があり、白金やニッケルの探鉱プロジェクトも進行しており、今後の発展が期待されている。

2. 2004年鉱業政策（鉱業法・税制、環境規制）の主な動き

2004年における動きは特になし。

Northern Mining Exploration社（カナダ）が30%の権益を所有するTalawaka鉱山（金埋蔵量16.3t、品位11.56g/t）が2005年に生産を開始した。当初の生産計画では2.4t/年とされている。

単位：t

鉱山名	生産開始年	埋蔵量、品位	操業企業	2003年金生産量	2004年金生産量
Bulyanhulu 鉱山	2001年	339.2t、13.4g/t	Barrick社(カナダ)	9.8	10.9
Gaita 鉱山	2000年	270.6t、3.82g/t	Anglogold Ashanti(南ア)	20.6	21.4
Golden Pride 鉱山	1998年	24.8t、1.60g/t	Resolute Mining社(豪)	5.2	4.8
North Mara 鉱山	2002年	118.4t、3.5g/t	Placer Dome社(カナダ)	6.0	6.5

(2) 探査状況

Luwumbu 白金-ニッケルプロジェクト

Goldstream Mining社（本社豪州）は、2003年7月、同社が有するタンザニアのLuwumbu白金プロジェクトをLonmin社（本社英国）と共同で行うことで合意。両社は2002年8月にもタンザニアのMibango白金プロジェクトについてJVを締結。今回の合意によればLonmin社は4年の間にLuwumbu地域で全額自社経費により鉱物資

源量(indicated)を把握した場合、51%の権益を得る。その後2年の間に経済性評価に必要な資金を自ら調達した場合、さらに19%取得できる。Lonmin社はLuwumbuプロジェクトの1年目に50万USドル支出する義務があるが、その後はいつでも撤退できる。探鉱の操業者はGoldstream社であり、Lonmin社は技術支援を行うが、Lonmin社はいつでも自らが操業者となれる。

Luwumbu地域はタンザニアの南西にあり、面

積は 5,800km² である。これまでに Goldstream 社の現地調査により 4 つの分化の発達した層状貫入岩とそれに伴う地化学異常が確認されている。2003 年の予備的ボーリングでは、白金品位 1.56g/t、ニッケル品位 0.33% を幅 9m 捕らえている。

Mibango 白金プロジェクト

Goldstream Mining 社(本社豪州)が Lonmin 社(本社英国)と共同で探鉱しているタンザニアの Mibango プロジェクトは、これまでに地化学探査とボーリング調査を実施し、広範囲に及ぶ白金の地化学異常域を把握するとともに、白金を中心とする初生鉱化の確認に成功している。現在、ボーリング調査を実施して鉱化の拡がりを確認するとともに周辺地域の空中物理(磁気)探査を実施中である。

タンザニアでは 1990 年以前にはほとんど鉱物資源探鉱が行われていなかった。しかし 1990 年代に金ブームが起こり、金生産量が 1991 年の 5t から、2002 年の 39t(推定)に急成長した。多くの鉱山会社がビクトリア湖南方のグリーンストーン帯で金探鉱を開始した。Goldstream 社は西地溝帯に分布する層状塩基性岩体に伴う白金、ニッケル、銅鉱床賦存の可能性に着目し、Mibango 等の鉱区 10,000km² を設定、既存資料解析に始まる探鉱を 1998 年に開始した。

Mibango 地域はタンガニーカ湖の西岸に位置し、面積は約 1,600km²。Goldstream 社は 2000 年に既往調査結果と Landsat 画像、既存空中磁気データを解析し、KMC 岩体の東南部のラテライトに覆われている地区の下部にも KMC 岩体の延長部が存在すると推定、これまで探鉱されていないことから、白金鉱床ないしニッケル銅鉱床を有する可能性が高いと判断。そして 2001 年に土壌地化探、トレンチ調査、浅い RAB ボーリング、RC ボーリングを実施。2002 年にはプラチナ鉱業で世界第 3 位の Lonmin 社とオプション契約を締結して共同探鉱を開始。2002 年には地表及び風化部で把握された地化学異常の下部を対象にボーリング 16 本計 3,696m を実施、うち 15 本で硫化物とクロム鉄鉱に富む鉱化帯を捕捉。鉱化は、クロム鉄鉱層、硫化物層、酸化表層の 3 種類がある。

Lonmin 社は、Mibango 白金探鉱プロジェクト

(タンガニーカ湖東岸)の 2003 年調査の結果を発表。少なくとも 3~6g/t の白金族金属を含む鉱層が 3km 以上連続して確認された。探査では、28km にわたる鉱化帯に対し 34 本総計 9,171m のボーリングが実施され、4 か所で高品位部が捕捉された。このうちボーリング KPD063 号では深度 257m 地点で幅 2.1m、ニッケル 3.03%、銅 0.46% が、また、このうち 30cm 幅で総白金族金属品位 3.22g/t の結果を得た。他の 3 地点の分析結果は、幅 0.9m に対して総白金族金属品位 6.25g/t、同 1.05m、3.76g/t 及び 0.9m、3.54g/t であった。更に、調査地域の表土について、厚さ 11.5m で総白金族金属品位 4.27g/t、同 34m、2.31g/t、32m、2.55g/t の分析結果を得るなど、最大幅 30m、2.2km² にわたる濃集域を抽出した。

更に、2004 年に実施された経済性評価の結果、資源量は 113.1 百万 t、ニッケル品位 0.82%、コバルト品位 0.05%、ニッケルのカットオフ品位 0.5% と計算された。2005 年においては 2.4 百万 US ドルの予算で延べ 8,000m のボーリングを含む調査を 5 月から開始する予定である。

合弁事業契約では、Lonmin 社は 5 年以内に総予算の資金手当と FS を完了すれば 65% の権益を確保できることになる。

Kabanga ニッケル・プロジェクト

Kabanga ニッケルプロジェクトは 1999 年、Barrick Gold 社(カナダ)が Sutton Resources 社の買収で取得したプロジェクトで、タンザニア北西部、Barrick 社の Bulyanhulu 金鉱山の西、Barrick 社が本年 3 月から生産開始した Tulawaka 金鉱山の北西に位置する。推定資源量は、ニッケル品位 2.6%、鉱量 2,640 万 t と見られている。Barrick 社と Falconbridge 社(カナダ)は、2005 年 4 月、タンザニアの Kabanga ニッケル・プロジェクトで JV 形成することに合意したと発表した。Falconbridge 社は、Barrick Gold 社から同プロジェクトの 50% 権益を 15 百万ドルで購入し、同社が JV のオペレーターとなる。

Falconbridge 社はこれから数年間の間に更なる探鉱やボーリングを含む資源モデルを見直すため、5,000 万ドルを投資し技術的作業を行う。この作業計画の終了後は、更に開発にかかる経費のうち 9,500 万ドルまでを負担する予定。その後の経費負担や総収益は Barrick 社と平等

に分けることになる。

生産が開始すれば、年間3万から3.5万tのニッケル精鉱が生産される。なお、ニッケル精鉱は、Falconbridge社が販売し、この精鉱のうち、少なくとも50%は同社のサドバリー精錬所またはノルウェーの精製施設で処理される予定。

(2005.6.6/ロンドン事務所 高橋 健一)